



平成24年11月に開催された認知症支援フォーラムでは、劇を通じて対応方法などを伝えた

渡鹿練兵場跡地は荒れ放題で、周囲は畑ばかり。そんな中、新しい小学校ができることを知った地域の人たちは、スコップやクワを持ち寄って、校庭や運動場を整備していきました。こうして戦後、熊本市新設小学校第1号となる託麻原小学校が生まれたのです。当時のことを知る託麻原校区自治協議会の林田國夫会長は「陸稲やカライモ、ラミー（麻）の畑やクリ林に囲まれたところでした。渡鹿通りの北側には農家がありました。住宅が本格的に建ち始めたのは戦後になってからです」と言います。

現在では熊本市内の小学校区で最大規模の世帯・人口を抱える託麻原校区。その発展のきっかけとなったのが、熊本市中心地から渡鹿地区を経由して郊外へと延びる道路の建設でした。沿線には数多くの店舗や事業所が並び、人口は急増しました。校区の北端にある「渡鹿堰」は白川水系最大の堰で、慶長11年〜13年（1606〜

渡鹿練兵場跡地に誕生した校区
託麻原 小学校の誕生は昭和29年4月。渡鹿練兵場跡地に小学校が建設されることになり、行政だけでなく校区の人たちが一体になって、建設に協力しました。終戦から数年しか経っていない

1608)頃、加藤清正により築造されました。渡鹿堰でせき止められた白川の水は、樋門を通じて大井手に引き入れられ、現在も熊本平野を潤しています。

健康と福祉を支える二つのネットワーク
そんな 託麻原校区は、中心街に隣接した利便性のよい地域として、早くからアパート・マンションの建設が進みました。馴染みのない土地で子育てをする核家族を支えようと、市内でもいち早く、平成6年から「校区住民が健康で幸せに暮らせる地域づくり」事業の1つとして「子育てネットワーク」を推進しています。社会福祉協議会が中心となり、保健師、民生委員・児童委員、主任児童委員、校区の4つの保育園などが協力しあって、乳幼児を持つ親を対象とした「子育ての集い」や子育てサークル活動を実施したり、校区版子育てマップの作成・配布を行ったりしています。



託麻原校区の中央を走る豊肥線。産業道路、水前寺駅通りなど、住宅街の中を幹線道路も通る



住民同士が見守りあって心の絆をつくる



平成25年3月に開催された徘徊模擬訓練。住民が徘徊する高齢者等の役になり、路上での声掛けや誘導を体験した